

保護者等アンケートへの回答

【学習指導について】

○授業のあり方

- ・自分でテーマを決めて、推論をたて、検証したものを発表し、フィードバックを受ける授業を通して、子供の成長を感じることができました。あのような授業は、将来非常に役に立つと思いますので、積極的に行って頂きたいです。
- ・グループワークが推奨されている今、苦手な子も居ます。
- ・主体性が必要なのはわかりますが、大人の配慮も必要な場合があると思います。
- ・定期考査前によく聞くのですが、授業時間に自習的な内容のものが多かったり、自由に過ごせたり、があるようで、行っても意味がないとぼやくことがあります。
- ・今年度、高校の美術の授業が開講されず、道全体としても、美術教員が不足している現状にあるが、その際、教員免許はないが指導の意欲のある方、もしくは、退職後の教員で指導が可能な方を応募し、事前に研修を受けられる体制をつくり、高校の美術（芸術）の授業が開講されるよう取り計らっていただきたい。

○学習指導について

- ・5教科以外の教科で時間を要する課題が出されているのを見て、実生活に役立つかどうか考えた時疑問です。
- ・学習指導は感謝している。しかしお便りの内容を見ていると考えが偏っていると感じることもある。勉強できなくても悪ではないと思ういい子はたくさんいますよ。
- ・先生方の負担もあるのですが、担当の先生によってあまり差がないようにしてほしいと思っています。（複数）
- ・学年上位と下位の差が大きいと聞く。下位を取りこぼさないような指導をお願いしたい。
- ・自宅やスキマ時間での学習の習慣づけについて、部活動との両立で難しくなってきた場合、時間が取れない中でもできることなど最低限やっておくべき取り組みを指導してもらえれば苦手教科毎にもっと講習があると良いのではと思います。生徒の自主性でえらぶだけではなく。
- ・テストの平均点が低い時などに、不十分だった点やテストに臨む姿勢について喝を入れるような言葉をしっかりと伝えてくれて助かります。褒めるだけではなく、ダメな事はダメだと伝えてくれたことで子供も反省してるようでした。
- ・教科書の本文を生徒に伝える方式の授業があるようだ。これではサテライト授業を見ているのと同じになってしまう。担当教諭はこの形式の授業を行なって楽しいと感じているのだろうか。

○授業のあり方、学習指導について

- ・同一科目の授業に関して、教科担任により指導に大きな差が出ないように、教員間の連携を深めていきたいと思います。
- ・文部科学省からは「協働的な学び」の充実をはかるように、といわれております。グループワークを全く行わないわけにはいきません。苦手であるからこそ、社会に出て仕事をする前の学校教育の段階で、協働の方法について学んでいくべきだと思います。
- ・学んでいる科目が大学受験で利用する科目であるかどうかということは、生徒の学力や人間性を高める上で関係のない要素であると思います。各教科担任は、各科目で設定され

た目標を達成できるように課題を課しております。

○芸術科目の開講について

・ご指摘の通り、時間講師等はもうほとんど見当たらない状況です。苦渋の決断で芸術の選択を2科目に減らしました。どうかご理解ください。

○補習等

- ・成績が上がらない教科があれば、どこをどのようにすれば上がりそうか、子供たち一人ひとりへの個別サポートのようなものもあると、子供たちの学力もより高まるかと思えます。
- ・自習室などを設けていただいているので助かります。ありがとうございます。

○補習等

・授業についていけない生徒の多くは、勉強の仕方を根本的に間違えている、家庭学習をほとんど行っていない、学習意欲に欠ける、などの傾向が多いです。正しい授業の受け方ができていて、家庭学習時間の確保が十分にできていて、意欲も高い状態にあるのに、それでも授業についてこれないときは、担任、各教科担任にご相談ください。

・難しい課題に取り組み、脳を「分からない」という状態にして、試行錯誤の末にそれを解決していくことを「学び」といいます。他者にすべて手取り足取り教えてもらって理解した気になる、という姿勢では高校、大学での学習は難しいと思います。

○考査について

- ・定期テストの内容を見たのですが、付け焼き刃では難しい内容でしたし、記述も多く、先生方の熱意が感じられるものでした。
- ・定期試験の難易度が難しすぎたり、量も多すぎる教科がある。平均点を60点程度、得点分布も適正になるように問題を作るべきと思う。
- ・考査の平均点があまりにも低いと生徒たちのやる気がそがれてしまうので、平均点60点前後くらいになるよう作問していただけるとありがたい。

○考査について

・定期考査の難易度については、本校に入学する力のある生徒が将来どこに向かっていくのかということを考えて設定しています。また本校の教員は数十年間様々な学校での経験のある者ばかりであり、生徒が本来持っている力はしっかりと把握しています。点数が低いからやる気をなくす、という短絡的な考えはせずに広い視野でテストの目的を捉えてください。

【キャリア教育と進路指導】

○進路に対する考えの生徒への伝え方について

- ・^{うえ}上の大学、医大系にたくさん行くとさらに東高の価値も上がるのかもしれないが、それ以外の大学を目指している子はだめ、というような発言をされるときいている。努力しても行けない子も、あえて上を目指さない子も、経済的に目指せない子もいるので、差別的発言はしないでほしい。

○進路に対する考えの生徒への伝え方について

・にわかには信じられない発言で、このようなことを言う教員は本校にはいないと思いま

すが、生徒どうしの会話の中からこのような話が聞こえてくるようです。しかし、本校はそのような考えとは全く正反対の立場であり、このことは生徒たちにも、きちんと理解させる必要があると考えています。

・中学生向けの学校説明会で「東高の進路は全方位型！」「医進類型指定校ではありませんが、決して医学部を目指す人だけを応援する訳ではありません（誤解しないようお願いします）」「(芸術系、海外等も含め)様々な進路を見つけてくる生徒たちを受け止め、その本気さに応じて、進路先によらず等しくサポートします」と公言している通り、生徒の進路実現を支援していくのが本校の進路指導の基本的な考え方です。もし万が一それとは異なることを言っているのではないかと疑問を持たれた際には、是非お知らせください。

○学びのフロー等、生徒の進路の可能性を広げることについて

- ・もう少し、現実味のある方の話も聞かせてあげて欲しい。いつも、とても素晴らしい肩書きの方が多過ぎて…。
- ・様々なことに触れて体験できる機会が増えると、より視野が広がり、選択肢も増えていくかと思います。
- ・医学部だけではなく、さまざまな進路選択に対応したキャリア教育や進路指導をしていただけるとありがたいです。
- ・具体的で広範囲に渡る、進学学部別の職業キャリア教育を期待します。

○生徒の進路の可能性を広げることについて

- ・本校では、学びのフローや文化講演会、総合的な探究の時間、職場体験等を利用して、生徒の目を様々な方向に向けさせ、様々な体験を得られるような取り組みを続けています。
- ・学びのフローでは様々な業種の方を呼んでいるものの、医療系の回数が多くなる傾向にあることは否めず、次年度以降も人選に工夫が必要であると考えております。

○本校教員による面談について

- ・相談する先生によってアドバイス内容に開きがあるようです（中略）大学受験への基本的対応や情報を先生間で共有できているとそこまでバラバラなアドバイスにならないのではないかと感じています。
- ・進路説明会等は定期的にあり参考になりますが、三年生の保護者も含めた個別面談等の機会が少ない様に思います。
- ・本当に悩んでいる時に、担任に相談出来ない事が子供から聞いてて、辛かったです。

○面談について

- ・今年度はインターハイの影響があり、面談の回数や対応の違いがあったことは否めません。ただ、本校では推薦関連の方を優先するという事は今までしたことはありませんので、誤って伝わってしまったのだと思われます。次年度以降は、誤解のないように周知するように考えております。
- ・また、教員間の共有が図られていないのではないかとのご指摘に関しては、次年度以降、面談週間の始まる前に教員の共通認識を再確認する機会を設け、アドバイスがバラバラにならないよう気をつけたいと思います。

○模擬試験について

- ・効率の良い復習のために、模試の問題と解答を当日持って帰ることのできる日程を調整していただきたいです。
- ・3年生の模試の回数が多いので、全体的にもう少し減らすか、選択制にしてください。
- ・校内模試については、先生方の負担（作問、採点）を考えると、外部模試か校内模試のどちらかでよいのではないかと思います。
- ・来年度3年生になります。模試結果等による、きめ細かな受験対策指導をお願いします。

○模擬試験について

- ・様々な行事を調整した結果がこの日程であり、全ての模試を標準実施日に学校で実施するのは不可能なため、なかなかご希望に添えることができないときがあるのも事実です。ご理解いただけると幸いです。
- ・まず、札幌の「多くの生徒が進学を目指す」高校が全員受験しないのは5月の第1回全統共テ模試・第1回全統記述模試、11月の第3回ベネ駿共テ模試の3回だけ、という客観的事実があります。大手予備校の模試を気軽に受けに行ける札幌の高校生に対して、地理的ハンディを抱えた旭川の高校生が対等に戦っていけるようにすることを考えると、模試の回数を減らせば当然学校が持つ受験データ（結果だけでなく、その問題と対峙したという経験も含め）は少なくなるため、札幌はもちろん全国の高校生に対しても不利になることは明らかで、生徒の進路実現にプラスに作用するとは考えられません。
- ・なお次年度は夏休みが延長される上、隔年で実施される本校を会場とした道の事業が8月上旬に行われるため、7月末の第2回駿台共テ模試が実施できなくなりました。その結果、問わずも3年生の全員対象の模試は1回減り、計15回になりました。
- ・校内模試は、①進学校としての実質を維持するための装置であり（進学校と名乗るなら必ず学校独自の実力テストを持っている）教員研修の場としても機能しており簡単には止められないこと、②業者模試とは一味違った東高生に特化した作問ができ合格判定もできる本校独自の有効な進路指導ツールとして今後も継続する、という2点については昨年4月の3学年保護者等向進路講演会で発信した通りです。
- ・本校の「模試で勉強する」という考え方は、大手予備校のない旭川で経験を積み結果を出し続けてきた進路指導における本校の隠れた強みだと自覚しておりますので、その強みを自ら弱めるような判断はなかなかできないということをご理解いただければ幸いです。
- ・我々は模試の度にその結果を受け、職員会議で本校生徒の長所と弱点を客観的に把握し、長所を伸ばし弱点を改善するための方策を考えて、日々の授業や講習に役立てております。ただ、このことについて強くアピールしていないこともあり、模試はただ受けっ放しだという印象を持たれるのかも知れません。これまで通り、模擬試験の結果を踏まえ、授業や講習等で受験対策指導を充実させていきます。

【生活指導について】

○学校生活について

- ・頭髪・身だしなみ指導をきちんとしてほしいです。
- ・頭髪・身だしなみ指導は緩やかで良いのではないのでしょうか。
- ・貴重品管理と盗難防止の対策をしてほしいです。
- ・季節を問わず、授業中の水分補給を認めるように改善すべきだと思います。

○学校生活について

- ・「東高生は良識をもって常に服装や身だしなみに留意する」という約束で、制服着用が

自由化された経緯があります。身だしなみのみならず、TPOを考えて良識ある行動を心がけるよう指導しています。

○貴重品管理と盗難防止について

・貴重品管理についての指導、移動教室の際の施錠、教員による巡回、生徒玄関の施錠、生徒玄関の防犯カメラを更新するなどし、対応しています。

○水分補給について

・令和6年度から、季節を問わず授業中の水分補給を認めます。

○自転車マナーについて

・自転車のヘルメット学校で義務化にしたらいい。

○自転車マナーについて

・今年度も複数回の交通事故が発生しています。幸いにも大きな事故にはなりませんでしたが、次年度も、ヘルメットの着用、スピードの出し過ぎも含めて注意喚起していく予定です。また、事故発生時の対応についても不十分な点が見られたため、被害者のみならず、加害者になった場合も想定して指導していきたいと考えています。

○人間関係・マナー指導について

・東高生は廊下ですれ違うたびに挨拶をしてくれます。とても素晴らしいですね
・子どもたちから気持ちのよい挨拶や受け答えをもらうことが多いです。
・保護者懇談会で校内に入ったが、生徒とすれ違う際に、自ら挨拶してくれる生徒と、積極的に挨拶しない生徒がおり、積極的に挨拶する習慣を身につけておいた方が、社会に出てからも印象が良いかと思います。

○素晴らしい東高生もおりますので、彼らを中心に改善に向けて働きかけていきたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

○学校（生徒会行事）行事について

・行事の充実を望みます。
・合唱祭の復活を希望します。
・急歩大会の仮装は良いのではないのでしょうか。

○合唱コンクールについては、実施時期が生徒の負担を大きくしているため、過去に時間をかけて検討した結果、実施しないこととなりました。

○急歩大会は、そもそも体育の授業として実施している行事です。急歩大会に向けて多くの生徒が完歩できるよう、日頃の授業で体力づくりに励んでいます。体育科としてはコロナ禍以前の急歩大会の反省結果や健康・安全面の観点で今のようなかたちで実施することとなりましたので、ご理解ください。

○その他

・東高だよりはいつも楽しく見ています。子どもと学校生活について話すきっかけとなっています。また学校側の生徒への関わりがよくわかり、家庭での話し合いの参考にしております。

- ・闇バイトや詐欺など、見極める方法など、担任の先生がとても良い先生なので良かったです。安心できます。
- ・校則等は生徒会で毎年見直させるのが理想と思う。
- ・子供のもつ、体調面で不安な要素に、親身に対応していただき、感謝しております。

○校則について

- ・令和4年度に生徒会がアンケートをとり、見直しを行いました。今後も、生徒や保護者等の意見を反映した見直しに努めて参りたいと考えます。

【部活動について】

○部活動の活動状況について

- ・部活動の終了時間が遅い。固定の休みが、すぐに変更になり学習に関する予定を立てにくい。可能であれば、部活動のスケジュールを明確にし、休みの日に変更になるなら早めに教えてほしい。前日の変更では、入れた予定を再調整することができず、場合によってはキャンセル料を取られてしまう。短い時間で集中して部活をやってほしい。
- ・部活動の取り組み方に差を感じ、もっと頑張りたい、経験したい、遠征にも行ってみたいと思っている子供達が可哀想に思うことがあります。

○部活動について

- ・本校の下校時間は、19時です。この時間前に活動を終了し下校することとしています。また、各部等のスケジュール、休みの変更については、早めにお知らせするよう努めて参りたいと考えます。

【施設設備について】

○暑さ対策・室温管理について

- ・夏の暑さ対策を行なっていただきたいです。スポットクーラー、窓用エアコンなど、少ない予算でもできることがあるのではないのでしょうか。

○暑さ対策について

- ・令和6年度から、夏場の暑さ対策として、長期休業期間の延長に合わせて、普通教室に各2台、スポットクーラーが設置されることとなりました。今後も適正な暑熱対策に努めていきたいと思えます。

○その他の施設・設備について

- ・生徒の椅子がかなり古いのか、ジャージなどが木の傷んだところに引っかかってしまい、トゲがついてきたり生地が傷んでることが度々あります。毛糸の服は糸が飛び出してしまう。
- ・購買のお店があった方がいい。前向きに検討されているのでしょうか？

○施設・設備について

- ・机・椅子他、施設・設備の劣化について、修繕に努めているところです。また、令和6

年度に向け、生徒用椅子を1学年分購入しました。

・購買を運営していただける業者を継続して募集していますが、応募がない状況です。みなさまからの情報提供をいただけると幸いです。また、令和6年度から、パンの自動販売機を設置します。

【管理職】

○教員の指導体制について

- ・勉強の成果を考査で発揮することができず落ち込んでいる時、担任の先生からの「大丈夫ですよ。」励ましの言葉がとても嬉しかったようです。いつも、ご指導ありがとうございます。
- ・保護者の相談に対して、迅速に対応して頂けていると思います。
- ・良い先生や友達に恵まれて、部活も勉強も自主的に取り組むことができました。

○教員の資質向上について

・授業アンケートの結果分析や公開授業、校内研修を重点的に行うとともに校外研修への積極的参加を促します。また、生徒理解に努め、個に応じた指導が実践できるよう情報共有を図ります。

○その他

- ・生徒に様々な場面において情報提供した記事や、ホームページを活用しながら保護者が生徒と同じレベルで認識させてほしいと思う。
- ・インフルエンザ等による学級閉鎖は、できれば前日か当日登校前に連絡していただきたい。一旦登校してから帰宅する際、電車やバスの本数などの関係により、スムーズに帰宅できないこともある。
- ・イチローさんが来た事について、お知らせも何もないのは、かなり不自然と思います。
- ・入学式の後の、進路の説明などが多すぎる。入学式だけでいいです。入学式の内容も、変えるべき点が多いと思う。高圧的で古いやり方をそのまま続けているようで、違和感を感じる部分が多かった。
- ・宿泊研修は、内容が多すぎる。
- ・他者が最初に学校について知りたいと思ったとき、まずはホームページを閲覧すると思う。
- ・最新の情報が少なく、学校を知る参考にならない。更新されているのかいないのか、良い印象を得られない。きちんと運用するべきではないか。

○情報発信について

・ホームページやX、Classi 等をとおして、今後も生徒・保護者等、地域の皆様への情報発信に努めて参りたいと考えます。

○行事の内容について

・保護者等からいただいた意見も含め検討し、適切で効果的な内容にして参りたいと考えます。